

第6学年 国語科学習指導案

学 級 6年1組 男子13名 女子17名 計30名

場 所 6年1組教室

授業者 高橋 晃子

1 単元名 宮沢賢治の世界について、自分の感じたことを朗読で表現しよう

教材名 「やまなし」宮沢 賢治 (光村図書6年)

補助教材 「風の又三郎」「よだかの星」「虔十公園林」「オツベルと象」他

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領第5学年及び第6学年の「読むこと」の指導目標「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」と、「読むこと」の指導事項「ア自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。」と、「エ登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」を受けて設定された単元である。本単元では、「友達や家の人に、宮沢賢治の作品から感じことを朗読で伝える」という言語活動を位置付ける。

同系列の6年生の単元では、「カレーライス」において、中心人物の心情を心情曲線で表し、心情がどのように変容したかをとらえたり、最後の一文の意味を考えたりして、最後に感想をまとめる学習を行っている。また、物語が一人称で書かれていることにも触れ、一人称の物語についての感想もまとめる学習をしている。

本教材は、額縁構造であり、その「中」の部分に「五月」と「十二月」の幻灯が位置付いている。宮沢賢治の深い思想性が表れている作品の一つであり、擬声語・擬態語・造語・色彩表現など、言葉の響きの美しさ、不思議さ、魅力にあふれている作品でもある。また、資料「イーハトーヴの夢」は、作者の信念、目的をもって生き抜くという強い意志と行動、そして、そこから生み出された作品が長く人々の共感をよんでいることを知ることができる。これらを重ねて読むことで、構造・表現の特徴をとらえて作品世界を深く味わうことができる。また、叙述から自分なりに作品の世界を想像することができ、それを朗読で表現することで、さらに作品の魅力を味わうことができる教材である。

(2) 児童について

単元の学習に関わったアンケートによると、「音読をする時、登場人物の心情や情景を想像しながら読んでいる」と答えた児童は8割ほどいたが、「音読と朗読の違いが分かる」と答えた児童は6割弱であった。このことから、文章を声に出して読む時は、登場人物の心情などを想像しながら読んでいるが、それが音声として表現できている児童は多くないことがわかる。また、宮沢賢治の作品を複数読んだことがある児童は5割ほどだった。

本学級の児童は、学習過程の中で、自力で考えられなかったことをグループや全体の交流で気付く場面が多くあり、グループや全体で交流する良さを感じている。しかし、自分の考えを表現する力が不十分なため、伝えるのに時間がかかったり、友達に言ってもらったりする児童がおり、積極的に自分の考えを伝えられるように指導している。

(3) 指導について

本単元では、学習のゴールとして「友達や家の人に、宮沢賢治の作品から感じたことを朗読で伝える」という言語活動を位置付ける。そのために、教材「やまなし」を読み、叙述から想像したことをどのように読めば相手に伝わるかを考えさせていく。

一次では、朗読は自分の感じたことを表現すればよいことに気付かせ、学習の見通しをもたせる。また、資料「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の考え方・生き方について学習していく。

二次では、「五月」と「十二月」の二枚の幻灯を3つの観点(谷川の様子、かこの兄弟の様子、出来事)に沿って読ませていく。その際、それぞれの幻灯で想像したことをどのように音声化すれば相手に伝わるかを考えさせ、お互いに助言し合いながら表現力を高めていきたい。さらに、題名について検討した上で、もう一度作品全体を通して朗読の仕方を考えさせ、発表会につなげていく。

三次では、これまでの学習を活かし、朗読したい賢治の作品を選び、同じ作品を選んだ者同士で朗読の仕方を考えていく。「やまなし」と共通しているところはどこか、賢治の考え方が表れているところはどこかなどを踏まえて朗読の仕方を考えさせ、発表会につなげ、宮沢賢治の世界観を感じ取らせたい。

3 単元の目標と評価規準

観点	目標	観点	評価規準
国語への関心・意欲・態度	・物語の情景や言葉の遣い方に興味をもち、作者の考え方や生き方を知ろうとする。	国語への関心・意欲・態度	・谷川の情景や擬声語や擬態語などの言葉の遣い方に興味をもち、自分の感じたことを朗読で表現しようとしている。 ・宮沢賢治の考え方や生き方を知ろうとしている。
読むこと	・物語を読んで自分なりに解釈したことや感動したことについて、どのように声に出して読めば聞き手にもよく味わってもらえるかを考えながら朗読することができる。(ア) ・登場人物の心情や場面についての描写を捉え、叙述について「イーハトーヴの夢」の学習を生かしながら自分の考えをまとめることができる。(エ)	読む能力	・物語を読んで自分なりに解釈したことや、感じたことが相手に伝わるように、記号や「～な感じ」「～のような」という言葉を使って考え、それを朗読で表現している。 ・人物の行動や会話から心情を想像したり、優れた描写から情景を想像したりしながら自分の考えをまとめている。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・語感、言葉の遣い方に対する感覚などについて意識して文章を読むことができる。(イ (カ))	言語についての知識・理解・技能	・宮沢賢治特有の擬声語・擬態語・造語・色彩表現など、言葉の響きの美しさを意識して文章を読んでいる。

4 指導計画 (9時間)

段階	時	本時の目標	学習課題と主な学習活動	評価規準 観点【 】 方法 ()
一次	3	① 学習課題を知り、学習計画を立て、学習の見通しをもつことができる。 宮沢賢治の世界について、自分の感じたことを朗読で表現しよう。	単元の学習計画を立てよう。 ・「やまなし」の全文を読み、初発の感想をもつ。 ・複数の朗読を聞き、朗読のイメージをもち、朗読発表会に向けて学習計画を立てる。	・朗読のイメージをもち、朗読発表会に向けて意欲的に取り組もうとしている。 【関・意・態】(発言・観察)
		② 「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方を知り、感想をもつことができる。	宮沢賢治とはどういう人なのだろう。 ・「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方を知り、感想をもつ。 ・作品は、宮沢賢治の生き方や考え方が表れている象徴的なものであることに気付く。	・「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方を知り、感想をもっている。 【読エ】(発言・ノート)
二次	4	④ 谷川の情景描写やかこの親子の会話に着目して「五月」の幻灯を想像し、想像したことをもとに朗読の仕方を考えることができる。	朗読の仕方考えるために、「五月」の幻灯を想像しよう。 ・「五月」の幻灯を読み、感じたことを朗読で表現するために、谷川の様子を想像する。	・「五月」の幻灯を読み、感じたことを朗読で表現するために、かこの兄弟の心情や情景を想像している。 【読エ】(発言・ノート)
		⑤ 谷川の情景描写やかこの親子の会話に着目して「十二月」の幻灯を想像し、想像したことをもとに朗読の仕方を考えることができる。 本時	朗読の仕方考えるために、「十二月」の幻灯を想像しよう。 ・「十二月」の幻灯を読み、感じたことを朗読で表現するために、谷川の様子を想像する。	・「十二月」の幻灯を読み、感じたことを朗読で表現するために、かこの兄弟の心情や情景を想像している。 【読エ】(発言・ノート)

		⑥ 「五月」と「十二月」を比べ感じたことを交流し、題名について自分なりの考えをもつことができる。	<p>題名の意図を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「五月」と「十二月」を比べ、その違いを明確にし、宮沢賢治の思いを考えながら題名の意図を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「五月」と「十二月」を比べ、その違いを明確にし、どうして「やまなし」という題名にしたのか、自分なりの考えをもっている。 <p>【読エ】(発言・ノート)</p>
		⑦ 文章全体に対する思いが表れるように朗読の仕方を考え、発表することができる。	<p>「やまなし」の朗読発表会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「五月」と「十二月」のどちらかの場面を選び、学習したことを生かして朗読の仕方を考え、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学習したことを活かし、文章全体に対する思いが表れるよう朗読の仕方を考え、発表している。 <p>【読ア】(ノート・朗読の様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・擬声語・擬態語・造語・色彩表現など、言葉の響きの美しさについて意識しながら読んでいる。 <p>【言イ(カ)】(朗読の様子)</p>
三 次	2	⑧ 朗読したい作品について感じたことが伝わるように、朗読の仕方を考えることができる。	<p>「賢治作品」の朗読の仕方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮沢賢治の作品を読み、同じ作品を選んだグループで朗読の仕方を検討し、練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朗読したい作品について朗読の仕方を考えている。【読エ】(ノート)
		⑨ 自分なりに想像したことを朗読で表現し、感想を伝え合うことができる。	<p>朗読発表会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朗読発表会を行い、聞き合った感想を伝え合う。単元全体を振り返り、身に付いた力をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに想像したことを朗読で表現し、感想を伝え合っている。【読ア】(朗読の様子・振り返りシート) <ul style="list-style-type: none"> ・擬声語・擬態語・造語・色彩表現など、言葉の響きの美しさについて意識しながら読んでいる。 <p>【言イ(カ)】(朗読の様子)</p>

5 本時の指導 (5/9)

(1) 目標

谷川の情景描写やかこの親子の会話に着目して「十二月」の幻灯を想像し、想像したことをもとに朗読の仕方を考えることができる。

(2) 評価と支援

評価の観点・評価規準	期待する児童の記述例	努力を要する児童への支援
<p>【読む能力エ】</p> <p>「十二月」の幻灯を読み、感じたことを朗読で表現するために、谷川の情景を想像している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「波が青白い火を燃やしたり消したり・・・」は、川底から水面を見たときに、波が起こったり消えたりしている様子を表しているのだと思う。月明かりが反射している感じがする。 ・「本当かい、じゃ、も一つはくよ。」「だめだい、・・・」は、兄弟が成長したことを表していると思う。兄さんは優しく、弟は負けたくなくてむきになっている感じがする。 ・落ちてきたものは、安心を表していると思う。かこ達にとって喜びを与えている感じがする。 	<p>どう想像すればいいかわからない児童には、かこの兄弟の気持ちを想像させる。</p>

(3) 研究とのかかわり

【学び合いを深める工夫】

- ・かこの兄弟の心情を想像するために、「五月」で落ちてきたものと比べて今回落ちてきたものは、かこの兄弟にとってどんなものなのだろう。それはどこから分かるか。」という発問をする。
- ・ノートに、教材文をコピーしたものを貼り、記号や想像したことを書き込ませ、交流した際に共感したことを青ペンで書き込ませる。

【表現する力を高める工夫】

- ・友達がどのような想像をし、どのような朗読の仕方を考えたのかを知るために、グループや全体で交流する。それを受けて自分の解釈と朗読の仕方を再構成させる。

(4) 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	・指導上の留意点 <>評価 ○研究内容との関わり
とらえる 5分	1 課題を把握する ・「五月」の幻灯について振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">朗読の仕方を考えるために、「十二月」の幻灯を想像しよう。</div> 2 見通しをもつ ・想像したことをもとに朗読のしかたを考えることを確認する。		・「五月」の谷川の様子や落ちてきたもの、かこの兄弟の様子を想起させる。
たしかめる 30分	3 自分の考えをもつ。 ・想像したことを書き込み、朗読をする。 4 学び合いをする ・どのように想像したか、グループで話し合う。(グループ) ・3つの観点について話し合う。(全体) ・「落ちてきたもの」について考える。 ・全体交流を受けて再度、解釈と朗読の仕方を考える。 <B評価の文例> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・「波が青白い火を燃やしたり消したり・・・」は、川底から水面を見たときに、波が起こったり消えたりしている様子を表しているのだと思う。月明かりが反射している感じがする。 ・「本当かい、じゃ、も一つはくよ。」「だめだい、・・・」は、兄弟が成長したことを表していると思う。兄さんは優しく、弟は負けたくなくてむきになっている感じがする。 ・落ちてきたものは、安心を表していると思う。かに達にとって喜びを与えている感じがする。 </div> ・気に入った場面を朗読する。	・波が青白い火を燃やしたり消したり・・・は、波が起きたり消えたりしていることを表していると思う。静かな夜を想像した。 ・「本当かい、じゃ、も一つはくよ。」「だめだい、・・・」の会話から弟のかにが成長したことを表していると思う。弟のかにが兄さんに対してむきになっているのを想像した。 ・かわせみと違って、安全なもの。 ・「おいしいお酒になる」と書いているので、落ちてきて嬉しいもの。 ・最初は、かわせみだと思ってびっくりしたけれど、安全なものと分かって安心したと思う。	○ノートに、教材文をコピーしたものを貼り、想像したことや記号を書き込ませ、交流した際に共感したことを青ペンで書き込ませる。 ・3つの観点（谷川の様子、かこの兄弟の様子、落ちてきたもの）について自分なりの解釈を確認させる。 ○かこの兄弟の心情を想像するために、「五月」で落ちてきたものと比べて今回落ちてきたものは、かこの兄弟にとってどんなものなのだろう。それはどこから分かるか。という発問をする。 ○友達がどのような想像をし、どのような朗読の仕方考えたのかを知るために、グループや全体で交流する。それを受けて自分の解釈と朗読の仕方を再構成させる。 ・3観点について、どこをどのように想像したのか具体的に書かせるようにする。 <評価規準> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「十二月」の幻灯を読み、感じたことを朗読で表現するために、かこの兄弟の心情や情景を想像している。【読エ】(発言・ノート)</div>
まとめる 10分	5 まとめる ・3～4人の朗読を全体で聞く。 6 振り返る ・「ふり返しシート」に記入する。 ・記述内容を発表する。 ・次時の学習の見通しをもつ。	・グループで話し合ったときに、○○さんが、「天井では、波が青白い火を・・・」のところから月明かりが反射している」と想像していたので、なるほどと思った。	・どこをどのように想像したかを言ってから朗読させる。